

5 - 13 京都／名古屋・三ヶ日・静岡・掛川・御前崎間の精密重力結合(3) Precise Gravimetric Connections Performed among Kyoto/Nagoya, Mikkabi, Shizuoka, Kakegawa and Omaezaki (3)

京 都 大 学 理 学 部

名 古 屋 大 学 理 学 部

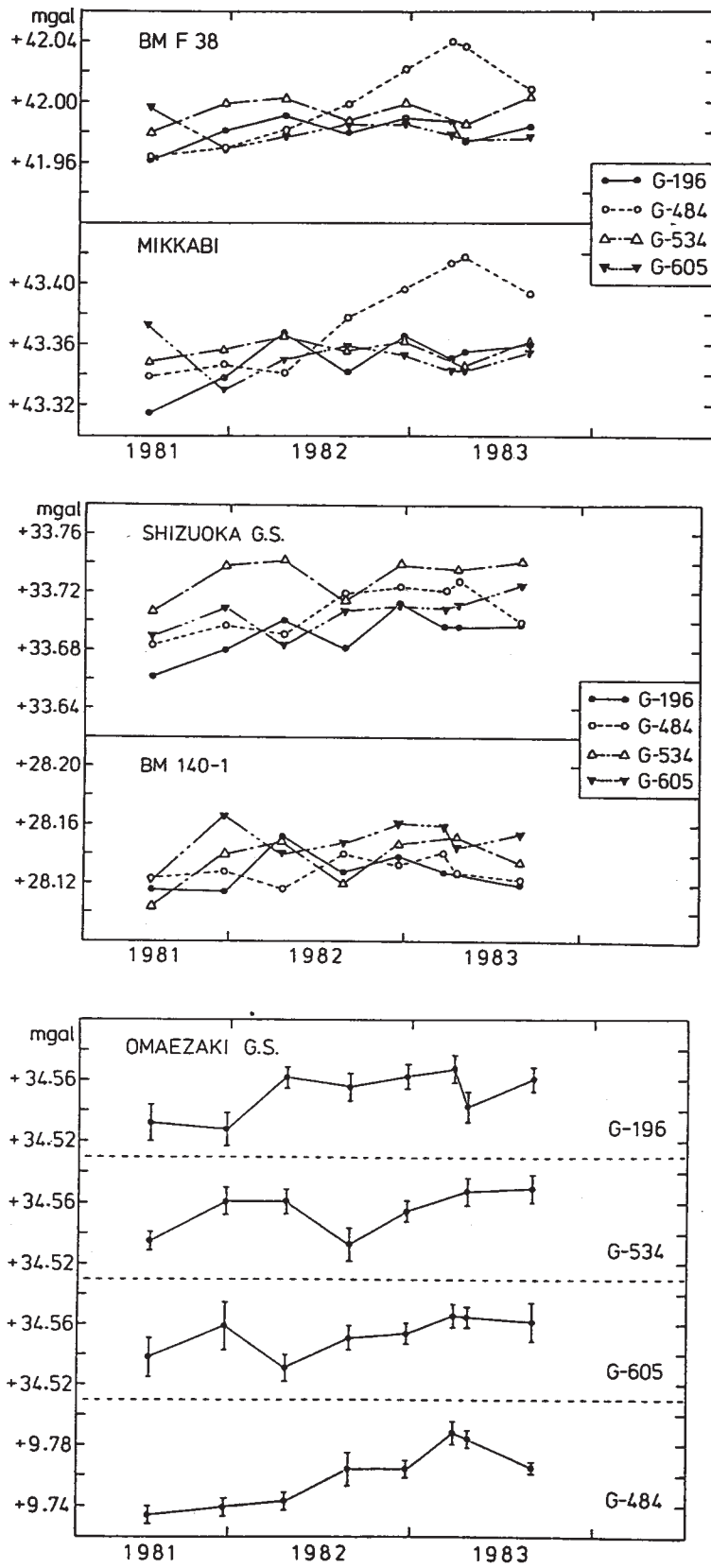
Faculty of Science, Kyoto University
School of Science, Nagoya University

京都大学理学部地球物理学教室の重力基準点および名古屋大学理学部地球科学教室の重力基準点と静岡県内の5点（BM基38，気象庁三ヶ日地殻歪観測室，静岡地方気象台重力点，BM140-1および御前崎測候所重力点）との精密重力結合を，1981年6月に開始し，その後，1981年12月，1982年4月，1982年8月，1982年12月，1983年4月，1983年8月とほぼ4ヵ月ごとに実施している。測定には，ラコスト重力計G-196，G-534，G-605（以上，京都大学所属）およびG-484（名古屋大学所属）を用いている。なお，上記以外に，1983年3月にもG-534を除く3台によって測定が行なわれている。

京都大学理学部地球物理学教室重力基準点および名古屋大学理学部地球科学教室重力基準点の重力値を不変とし，各重力計によって得られたこれらの基準点と各測定点間の重力差を第1図に示す。この図において，G-484による値は，上段・中段の図に示した4測定点については，上記の2基準点間の重力差を24.803mgalとして，この差を加えたものである。下段の図は，とくに各重力計によって得られた重力差の標準偏差を縦棒の長さで示している。

この図をみてわかるように，名古屋大学を基準としたG-484による測定値だけが，京都大学を基準とした他の3台によるものに比べて，とくに顕著な重力変化を示している。このことは，名古屋大学の基準点における重力値が相対的に数 $10\mu\text{gal}$ 程度変化したものと解釈することもできる。

この重力結合は，今度とも定期的に行なわれる予定であり，重力変化についての詳細な議論は，稿を改めて試みたい。



第1図 各測定点で得られた見かけの重力変化

Fig. 1 Apparent gravity changes observed at Mikkabi, Shizuoka, Kakegawa and Omaezaki.